

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.76

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

副支部長就任のご挨拶

上 杉 進

一言ごあいさつを申し上げます。副支部長についてのお話がありました時、若干戸惑いがありました。しかし浅学非才を省みずお引き受けすることにしました。それは、私が維新期の長州藩の洋学について調べているときに、寺田芳徳先生が手がけられた萩藩藩校明倫館の洋学研究が私の研究に拍車をかけてくれました。この先生の学恩にいくらかでもお応えしたいと考えたからです。非才ですがどうぞよろしくお願い申し上げます。

「おいでませ山口」ご案内します。平成 25 年度の第 2 回研究例会は西の京山口の歴史民俗資料館で開催となりました。この資料館には、四境戦争で西洋兵学を駆使して幕府軍を敗走させた語学の天才大村益次郎ゆかりの品があります。また、花開いた大内文化のシンボル、瑠璃光寺の五重塔、雪舟の庭、また尊皇攘夷の総本山を象徴する御館門（旧山口藩庁門）も近くにあり、歴史を語りかけてくれます。どうぞご探訪ください。

長州の洋学は、「西洋学所を開設し洋学の振興を令す（毛利敬親 安政 2 年）」に始まります。以来下級武士や一般人の洋学習得熱は高まり、長崎、大阪、江戸へと出かけて行きました。例を挙げますと、緒方洪庵の適塾に在籍した塾生数、塾頭数（12 名中 6 名）共に長州出身が全国最多であること。また、江戸では、周防出身の蘭学者手塚律蔵が活躍したこと。彼は嘉永 4 年中浜万次郎の持ち帰った『The Elementary Catechisms, English Grammar』を英文から直接翻刻し『伊吉利文典』として安政 4 年世に出したこと等です。

藩府は慶応元年に三田尻に「海軍学校」を設置し Vedder を傭聘、慶応 4 年には海軍局に「語学校」を設けました。前年に毛利敬親父子が英国キング提督と会見、山口藩と英国の盟友関係が公となり、語学の流れは「蘭学から英学へ」と移行します。維新期の語学教育は、浅田栄次、石田憲次、岩崎民平、という英語界の三傑を生む素地となったと言えます。

県立文書館には貴重な資料が眠っています。どうぞご活用のほど。

(副支部長)

平成25年度第2回(通算69回)研究例会(山口研究例会)のご案内

前号でもお知らせした通り、本年度第2回(通算第69回)研究例会を、来る12月14日(土)、山口市歴史民俗資料館(山口県山口市)にて開催いたします。

今回の例会では、元毛利博物館館長 小山良昌先生のご講演、ならびに副支部長 上杉進先生の研究発表とともに、例会会場の山口市歴史民俗資料館所蔵資料の展覧も予定されています。会員の皆様にはぜひ山口の地にご参集いただきますよう、ご案内申し上げます。

研究例会のあとには、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時： 平成25年12月14日(土) 12:30 受付開始
会 場： 山口市歴史民俗資料館 2階 学習室
〒753-0073 山口市春日町5-1 電話: 083-924-7001

プログラム：

開会行事(13:00-13:05) 支部長挨拶 田村道美(香川大学)

講演(13:05-14:35)

「杉孫七郎の渡欧と長州ファイブ」

小 山 良 昌 氏(山口県地方史学会会長・元毛利博物館館長)

万延元年(1860)、幕府の遣米使節に随行した藩士北条源蔵、ついで、翌文久元年(1861)幕府の遣欧使節に随行した藩士杉孫七郎から、欧米の進んだ文明の実態報告を受けた藩首脳は、攘夷運動の先頭を走る長州藩の攘夷戦は負け戦となることを覚悟。藩が採った「次善の策」が、若き優秀な藩士5人の英国留学であった。5人の内、井上馨と伊藤博文は4国艦隊の下関報復戦の情報を入手し、急遽帰国し、講和会議の通訳として活躍する。

資料展覧(14:35-15:20) 山口市歴史民俗資料館所蔵資料(大村益次郎関係ほか)

研究発表(15:20-16:20)

「松下村塾最後の塾生 正木退蔵と吉田寅次郎」

上 杉 進 氏(元高水高等学校)

「...上策は和漢の学を廃絶し、杉田成卿へなりと入塾し、蘭学三年するに如かず、これ大業大功なり。...」と尊王攘夷の総本山といわれた長州で松陰は説くのである。 退蔵少年は、語学習得に目覚め、村田蔵六(蘭学)、Vedder(英学)の薫陶を受け宿願の英国留学を果たす。英国再訪中に、『宝島』の作者 Stevenson に出会い、師を語る。かくして世界初の‘Yoshida-Torajiro’伝が生まれた。退蔵は帰国後、東京職工学校の創立とハワイ移民に関わり日本の近代化に貢献した。退蔵の心を奪った松陰の教えは何であったのか。掘り起こしを試みたい。
--

閉会行事(16:20-16:30) 副支部長挨拶 松岡博信(安田女子大学)

忘年懇親会(17:30-19:30) 心和食まほら(山口市湯田温泉 3-3-15, Tel083-934-7321)(予算 5,000 円程度)

山口研究例会の参加申込・宿泊について

ニューズレター前号にて、例会当日の宿泊予約についてご案内を差し上げたところですが、事務局確保分にまだ余裕があります（シングル、1泊 5,000～7,000 円程度）。ご希望の方はお知らせください。なお、現在、例会・懇親会の追加申込を受け付けておりますので、予定変更等によりご参加が可能になられた方は、ぜひお申込みくださいますよう、よろしく願いいたします（11 月末日までお願いいたします）。

事務局連絡先 メールアドレス： eigaku@tom.edisc.jp

F A X 番 号： (0824) 74-1725

郵 送 先： 〒727-0023 広島県 庄原市七塚町 562 県立広島大学 馬本研究室内
日本英学史学会 中国・四国支部事務局



(山口県ホームページより)

※当日 11:00 より理事会を開催します（山口市歴史民俗資料館 学習室にて）。理事の皆様には、別途、理事会のご案内をお届けいたします。

英学史情報ひろば

- ◇第 158～159 回「広島ラフカディオ・ハーンの会」
ニュース（2013 年 10 月～11 月）
- ◇安倍規子（2013）「修猷館の英語教育：明治・大正時代の外国人教師について」『有明工業高等専門学校紀要』49, 1-13.
- ◇安倍規子（2012）「修猷館の英語教育：明治時代の英語教師(4) 同志社出身の赤井直吉と久永機四郎」『有明工業高等専門学校紀要』48, 33-40.

中国・四国支部事務局より

≫ 年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費（一般 3,000 円、学生 2,000 円）をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願いいたします。

（口座番号）01360-9-43877

（加入者名称）日本英学史学会 中国・四国支部

≫ 第 2 回研究例会（山口例会）について

今年度第 2 回（通算 69 回）研究例会は、2013 年 12 月 14 日（土）、山口市歴史民俗資料館（山口県山口市）を会場に開催されます。本ニューズレター 2～3 ページをご覧くださいの上、追加でお申込みくださる方は 11 月末日までにお知らせください。

≫ 『英學史論叢』第 17 号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第 17 号（2014 年 5 月発行予定）の原稿を募集します。研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

・ご投稿に際しては、ニューズレターNo.75 に掲載の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。

・研究論考・研究ノートを投稿予定の方は、事前に「投稿申込」をお願いします。2014 年 1 月 31 日までに事務局へお申し込みください。

メール：eigaku@tom.edisc.jp

ファックス：0824-74-1725

・原稿提出の締切は、**2014 年 2 月 20 日**（消印有効）です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートは、正副計 3 部をお送りください。英学史随想、書評等は 1 部お送りください。

追悼記投稿のお願い

『英學史論叢』第 17 号に、本年 8 月にご逝去なさいました寺田芳徳先生を偲ぶ「追悼記」を掲載したいと思っております。会員の皆様方に多数ご寄稿いただきたく、お願いを申し上げます。

タイトル、および本文（全角 38 字×30 行以内）を、ニューズレターNo.75 に掲載の「『英學史論叢』標準書式」に沿って B5 判 1 ページにまとめ、事務局まで 1 部、お送りください。

多数のご寄稿をお待ちしております。

追悼記締め切り：2014 年 3 月 31 日

≫ 紀要の配布・販売について

研究紀要『英學史論叢』は、会員の方へ一部ずつ、研究論考・研究ノート執筆者には所定の部数をお渡ししています。最新号の追加やバックナンバーをご希望の方には、一部 1,000 円（非会員 1,500 円）にて販売いたします（郵送料込）。バックナンバー収載の研究論考等のタイトルは、ウェブサイトにてご確認いただけますが、詳細は事務局までお問い合わせください。

広島英学史の周辺(42) 長く続いた暑い夏がようやく終わり、急激に気温が下がってきました。ここ数年、秋雨の時期が後ろにずれている、ということをラジオで聞きました。冬の始まりも遅くなれば良いのですが、冬将軍はすでに日本に到着した模様です。▼「日本は亜熱帯だ」「これまでに経験したことのないような大雨」「夏と冬の二季になった」。こんな言葉を耳にすることが増えました。世の中が常でないのは当たり前ですが、「異常気象」と呼びたくなるほど、何かが違うように感じます。▼私の勤務する広島県北地域では、この季節になるとカメムシを見かけることが多くなります。大量に出る年は雪が多い、とも聞きます。毎年カメムシは多いし、冬はいつも寒いのですから、そんなに驚くことではないのですが、こちらもなんだか、いつもより多いような気がしています。▼いよいよ師走が近づいてきました。冬の研究例会、今年は山口市での開催です。プログラムをご覧くださいますと、このたびの例会は、「長州の英学」について研究を深める、また

とない機会であることが分かります。▼先日、小学校の同窓会に出かけてきました。40 年近く前になりますが、当時広島市内の公立小学校では、関門橋、下関、秋芳洞、秋吉台、萩などを巡る修学旅行が多かったのではないかと思います。雨の中を訪ねた東光寺や松下村塾のこと、開通間もない新幹線に乗ったことを思い出します。▼では皆様、山口でお会いしましょう。（馬）

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No. 76

2013 年 11 月 22 日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部（代表 田村道美）

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.76